

大

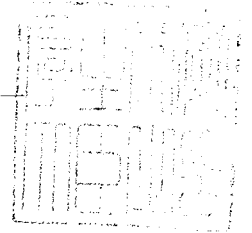
資料 11

厚生労働省発薬食第 1107077 号

平成 20 年 11 月 7 日

薬事・食品衛生審議会会長  
望月正隆 殿

厚生労働大臣 舩添要一



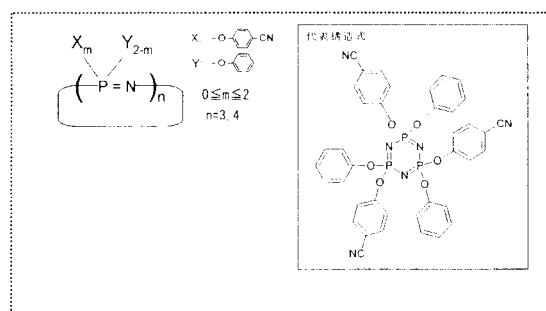
諮 問 書

下記の事項について、毒物及び劇物取締法（昭和 25 年法律第 303 号）第 23 条の 2 の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

記

シクロポリ（3～4）[ジフェノキシ、フェノキシ（4-シアノフェノキシ）及び[ビス（4-シアノフェノキシ）]ホスファゼン]の混合物及びこれを含有する製剤の毒物及び劇物取締法に基づく劇物の指定の除外について

シクロポリ (3~4) {ジフェノキシ、フェノキシ (4-シアノフェノキシ) 及び[ビス (4-シアノフェノキシ)] ホスファゼン} の混合物の毒物及び劇物取締法に基づく毒物又は劇物の指定について



名称 (英語名) Mixture of Cyclopoly(3 and 4) {diphenoxy, phenoxy (4-cyanophenoxy) and [bis (4-cyanophenoxy)] phosphazene}

(日本名) シクロポリ (3~4) {ジフェノキシ、フェノキシ (4-シアノフェノキシ) 及び[ビス (4-シアノフェノキシ)] ホスファゼン} の混合物

### 経緯

上記化学物質は有機シアン化合物として劇物に指定されているが、今般毒性データが提出されたものである。

### 用途

難燃剤

### 物理化学的性状

別紙 1 を参照

### 毒性

別紙 2 を参照

### 事務局案

シクロポリ (3~4) {ジフェノキシ、フェノキシ (4-シアノフェノキシ) 及び[ビス (4-シアノフェノキシ)] ホスファゼン} の混合物を劇物から除外することが適当であると考えられる。

## 物理的・化学的性質（原体）

名称	シクロポリ (3~4) {ジフェノキシ、フェノキシ (4-シアノフェノキシ) 及び[ビス (4-シアノフェノキシ)] ホスファゼン} の混合物 (英名) Mixture of Cyclopoly(3 and 4) {diphenoxy, phenoxy(4-cyanophenoxy) and [bis(4-cyanophenoxy)]phosphazene}
CAS番号	-
化審法番号	-
化学式 分子式	$[NP(OC_6H_4CN)_m(OC_6H_5)_{2-m}]_n$ $[0 \leq m \leq 2, n=3 \sim 4]$
分子量	平均 769 (3 量体)、1,025 (4 量体)
物理化学的性状	
性状	粉末状固体
沸点 (°C)	約 300 °C以上
融点 (°C)	約 100 °C以上
密度	1.30
蒸気圧	取得データなし
溶解性	N,N-Dimethylformamide に可溶
水溶解度 (g/100g)	1 g 以下
安定性	通常の運搬、取扱においては安定している。
反応性	酸、アルカリとの反応性あり。
揮発性	なし
引火性及び発火性	なし
その他	なし

## 毒性

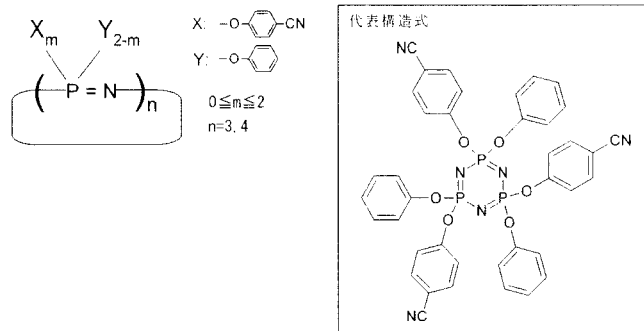
## (1) 原体

試験の種類	供試動物	試験結果	備考
急性経口毒性	ラット	LD <sub>50</sub> : >♀ 2,000mg/kg	GLP(2007) OECD423
急性経皮毒性	ラット	LD <sub>50</sub> : ≥♂♀ 2,000mg/kg	GLP(2008) OECD402
急性吸入毒性	ラット	LC <sub>50</sub> : >♂♀ 5.13 mg/L	GLP(2008) OECD403
皮膚刺激性/腐食性	ウサギ	刺激性なし	GLP(2008) OECD404
目刺激性/腐食性	ウサギ	刺激性なし	GLP(2008) OECD405

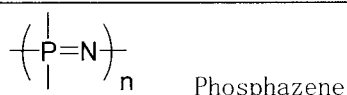
## 名称資料

## &lt;命名根拠&gt;

シクロポリ (3~4) {ジフェノキシ、フェノキシ (4-シアノフェノキシ) 及び[ビス (4-シアノフェノキシ)] ホスファゼン} の混合物

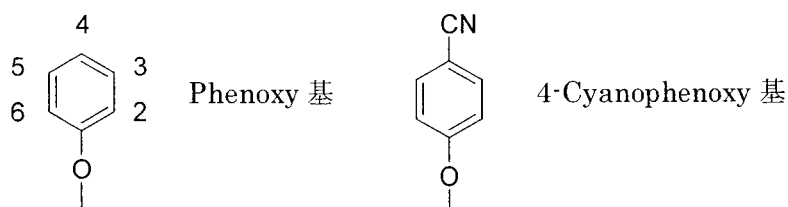


Mixture of Cyclopoly(3 and 4) {diphenoxy, phenoxy(4-cyanophenoxy) and [bis(4-cyanophenoxy)]phosphazene}



リンと窒素の繰り返しからなる骨格を Phosphazene という。

本化合物は Phosphazene の繰り返しが 3 及び 4 の環状物質の混合物であるため、Mixture of Cyclopoly(3 and 4) phosphazene と表記される。



また、リン原子上の置換基は

① 4-Cyanophenoxy 基が 2 個、② 4-Cyanophenoxy 基及び Phenoxy 基が各 1 個、③ Phenoxy 基が 2 個のいずれかであり、本化合物はそれらの混合置換体であるため、本化合物の置換基は、bis(4-cyanophenoxy), 4-cyanophenoxy (phenoxy) and diphenoxy となる。

したがって、Mixture of Cyclopoly(3 and 4) {diphenoxy, phenoxy(4-cyanophenoxy) and [bis(4-cyanophenoxy)]phosphazene}

日本語に字訳すると

シクロポリ (3~4) {ジフェノキシ、フェノキシ (4-シアノフェノキシ) 及び[ビス (4-シアノフェノキシ)] ホスファゼン} の混合物となる。

# 資料 12

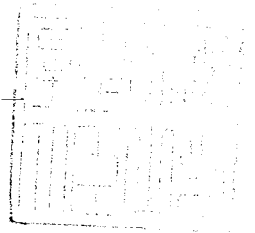
厚生労働省発薬食第1107078号

平成20年11月7日

薬事・食品衛生審議会会長

望月正隆 殿

厚生労働大臣 舛添要一



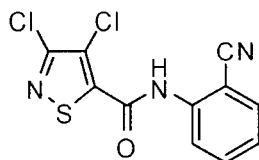
## 諮 問 書

下記の事項について、毒物及び劇物取締法（昭和25年法律第303号）第23条の2の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

### 記

3, 4-ジクロロ-2'-シアノー-1, 2-チアゾール-5-カルボキサニリド（別名イソチアニル）及びこれを含有する製剤の毒物及び劇物取締法に基づく劇物の指定の除外について

3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド(別名:イソチアニル)及びこれを含有する製剤の毒物及び劇物取締法に基づく劇物の除外について



### 名称

(英語名) 3,4-dichloro-2'-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide

(日本名) 3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド

(別名)イソチアニル(isotianil)

### 経緯

上記物質は有機シアン化合物として劇物の指定を受けているが、今般毒性データが提出され、劇物からの除外を検討するもの。

### 用途

農業用殺菌剤

### 物理化学的性状

別紙1を参照

### 毒性

別紙2を参照

### 事務局案

3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド及びこれを含有する製剤を劇物から除外することが適当と考えられる。

## 物理的・化学的性質(原体)

項目	
名称	3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキシニリド (別名) イソチアニル (英名) 3,4-dichloro-2'-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide
CAS番号	224049-04-1
化審法番号	-
化学式	
分子式	C <sub>11</sub> H <sub>5</sub> Cl <sub>2</sub> N <sub>3</sub> OS
分子量	298.15
物理化学的性状	
性状	白色粉末
沸点 (°C)	減圧条件下： 沸点由来の重量損失を伴う吸熱ピーク=266.0°C 大気圧条件下： 気化由来と推定される重量損失を伴う吸熱ピーク=354°C付近 分解由来と推定される重量損失を伴う発熱ピーク=372°C付近 沸点に達する温度以下で熱分解
融点	融点に由来する吸熱ピーク：193.7-195.1°C
密度	1.110 g/cm <sup>3</sup> (20°C)
蒸気圧	2.36 × 10 <sup>-7</sup> Pa (25°C)
溶解性	n-ヘキサン 0.0594 g/L (20°C) トルエン 6.87 g/L (20°C) ジクロロメタン 16.6 g/L (20°C) アセトン 4.96 g/L (20°C) メタノール 0.775 g/L (20°C) 酢酸エチル 3.62 g/L (20°C)
水溶解度	0.50 mg/L (20°C、純水 pH7.0)
安定性 (対熱)	282°C以下の温度領域で熱的に安定
反応性	-
揮発性	-
引火性及び発火性	-
スペクトル	別添 (UV/VIS 赤外吸収 <sup>1</sup> H-NMR、 <sup>13</sup> C-NMR 質量スペクトル)
その他	-



## 急性毒性

## (1) 原体

試験の種類・ 期間	供試動物	1群当り 供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD <sub>50</sub> 値または 無毒性量(NOEL) (mg/kg)	試験機関 (報告年)
急性毒性 14日間観察	ラット	各段階 ♀3	経口	♀:2000	♀:>2000	Bayer HC* (2005年)
急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経皮	♂♀:2000	♂♀:>2000	住友化学 (2006年)
急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	吸入	♂♀:5000(mg/m <sup>3</sup> ) 4時間鼻部曝露	♂♀: LC <sub>50</sub> >4750(mg/m <sup>3</sup> )	住友化学 (2007年)
皮膚刺激性 72時間観察	ウサギ	♂:3	皮膚貼付	0.5g/皮膚(2.5cm 四方)	刺激性なし	住友化学 (2005年)
眼刺激性 72時間観察	ウサギ	♂:3	眼への 適用	0.043g(0.1mL容量) /眼	實際上 刺激性なし	住友化学 (2005年)
皮膚感作性	モルモット	♀:20	Maximi- zation法	5%で一次感作(皮内)、 50%で二次感作(経 皮)、50%で惹起 [Magnusson and Kligman法]	皮膚感作性あり	Bayer HC* (2005年)

Bayer HC\*: Bayer HealthCare AG

## (2) 3.0%製剤(粒剤)

試験の種類・ 期間	供試動物	1群当り 供試数	投与方法	投与量 (mg/kg)	LD <sub>50</sub> 値または 無毒性量(NOEL) (mg/kg)	試験機関 (報告年)
急性毒性 14日間観察	ラット	各段階 ♀3	経口	♀:2000	♀:>2000	ホッソ** (2007年)
急性毒性 14日間観察	ラット	♂♀各5	経皮	♂♀:2000	♂♀:>2000	ホッソ** (2007年)
皮膚刺激性 72時間観察	ウサギ	♀:3	皮膚貼付	0.5g/皮膚(2.5cm 四方)	刺激性なし	ホッソ** (2007年)
眼刺激性 72時間観察	ウサギ	♀:3	眼への 適用	0.1g/眼	ごく軽度の刺激 性あり 洗眼効果あり	ホッソ** (2007年)
皮膚感作性 (3.0%粒剤)	モルモット	♀:20 (感作群)	Buehler法	感作、惹起ともに 50%	皮膚感作性なし	ホッソ** (2007年)

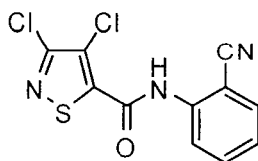
ホッソ\*\*: ホッソリサーチセンター

## 5. 製剤の成分

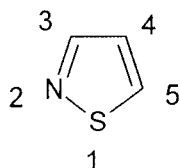
(3.0%製剤の成分組成はバイエルクロップサイエンス社所有:非開示)

名称資料

3, 4-ジクロロ-2'-シアノ-1, 2-チアゾール-5-カルボキサニリド



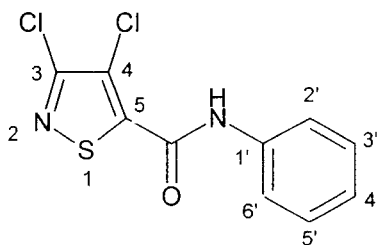
3,4-dichloro-2'-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide



1,2-thiazole

チアゾール (thiazole) は環内に窒素、硫黄各 1 原子を有する五員複素環化合物であり、上記基本化合物は硫黄原子 S (1 位) に対して 2 位に窒素原子 N が配位しているため、1,2-thiazole と記される。接頭辞で表される特性原子団である塩素 (chloro) が 1,2-thiazole の 3 位及び 4 位に 2 原子つき、また *N*-フェニル置換されたアミド原子団 carboxanilide が 5 位についている。アミド原子団 carboxanilide は接尾辞となる。

従って、3,4-dichloro-1,2-thiazole-5-carboxanilide と標記される。



3,4-dichloro-1,2-thiazole-5-carboxanilide

更に、アミン残基であるフェニルの 2 位が cyano により置換されている。アミン残基の置換基を示す位置記号にはプライムを付け、接頭辞として 2'-cyano と記される。接頭辞は chloro が優先されるため、

3,4-dichloro-2'-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide と標記する。

これを日本語に字訳すると

3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド となる。

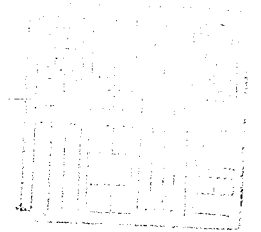
厚生労働省給薬令第1107079号

平成20年11月7日

薬事・食品衛生審議会会長

望月正隆 殿

厚生労働大臣 外 添 要



## 諮 問 書

下記の事項について、毒物及び劇物取締法（昭和25年法律第303号）第23条の2の規定に基づき、貴会の意見を求めます。

### 記

2- [2- (4-メチルフェニルスルホニルオキシイミノ) チオフェン-3 (2H) -イリデン] -2- (2-メチルフェニル) アセトニトリル及びこれを含有する製剤の毒物及び劇物取締法に基づく劇物の指定の除外について

物理的・化学的性質 (原体)

CAS 番号	852246-52-7
構造式	
分子式	$C_{20}H_{16}N_2O_3S_2$
分子量	396.5
物理化学的性状	
性状	黄褐色粉末
沸点 (°C)	
融点 (°C)	135-138°C
比重 (g/cm <sup>3</sup> )	
蒸気圧 (°C)	
溶解性	
安定性	室温で安定
反応性	室温で安定 (熱分解温度 143°C)
揮発性	該当しない
引火性及び発火性	引火性 (ベンゼンアセトニトリル誘導体)
その他	国連番号 1325 (その他の可燃性物質: ベンゼンアセトニトリル誘導体) 特異臭、熱分解温度 143°C

## 毒性 (原体)

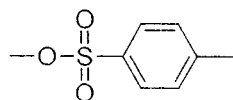
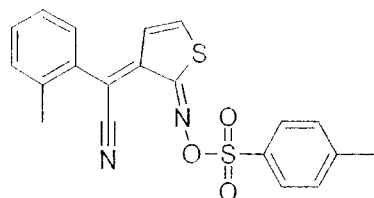
資料 No.	試験の種類	供試 動物	1群当り 動物数	投与 方法	投与量 (mg/kg)	試験結果	試験法
3	急性経口毒性	ラット	♀3 (2群)	経口	2000	LD <sub>50</sub> : >2000mg/kg	OECD 423 GLP試験 2005年
4	皮膚刺激性 (パッチ除去 後24,48,72時 間観察)	ウサギ	♂1 ♀2	貼付	500	刺激性なし (EU委員会指令 2004/73/EC、2004 年8月29日付に基づ く判定) 観察1時間後、全動物 に微細な紅斑が見ら れ2匹のみ24時間目ま で紅斑が持続した。 貼付中止後7日目、い ずれの動物にも異常 は認められなかつた。	OECD 404 GLP試験 2006年
5	眼刺激性 (点眼後24, 48,72時間観 察)	ウサギ	♂1 ♀2	点眼	100	眼刺激性なし (EU委員会指令 2004/73/EC、2004 年8月29日付に基づ く判定) 点眼72時間後、いず れの動物にも異常は 認められなかつた。	OECD 405 GLP試験 2006年
6	急性吸入毒性 (暴露後15日 まで観察)	ラット	♂5 ♀5	吸入	3.506 mg/L (重量濃 度)	LC <sub>50</sub> (4hr): ♂ ♀ > 3.506 mg/L エアロゾル  雌で軽度の体重減少 が認められた。	OECD 403 GLP試験 2008年

## 備考

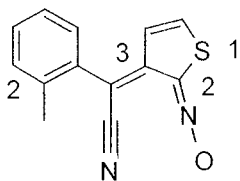
本物質の物理化学的性質や皮膚刺激性試験の結果から、本物質は特異的に強い経皮毒性を呈さないと推測される。

2-[2-(4-メチルフェニルスルホニルオキシイミノ)チオフェン-3(2*H*-イリデン)]-2-(2-メチルフェニル)アセトニトリル

2-[2-(4-methylphenylsulfonyloxyimino)thiophene-3(2*H*-ylidene)]-2-(2-methylphenyl)acetonitrile



4 位にメチル基の置換したフェニル基と結合したスルホニルがさらに=N-O と結合し 4-methylphenylsulfonyl oxyimino と表記する。



チオフェン環の 2 位に(4-methylphenylsulfonyloxyimino)がつき、さらに、チオフェン環の 3 位に結合する二価基を 3-ylidene と称するので、

**2-(4-methylphenylsulfonyloxyimino)-thiophene-3(2*H*-ylidene**

さらに、ベンゼン環の2位にメチルが置換するので**2-methylphenyl**と表記する。

アセトニトリルCH<sub>3</sub>CNの2位の炭素に

**2-(4-methylphenylsulfonyloxyimino)-thiophene-3(2*H*-ylidene)と、**

**2-methylphenyl**が結合しているので、本物質は英語名で:

**2-[2-(4-methylphenylsulfonyloxyimino)thiophene-3(2*H*-ylidene)]-2-(2-methylphenyl)acetonitrile**

と表記し、これを日本語に訳すると、

2-[2-(4-メチルフェニルスルホニルオキシイミノ)チオフェン-3(2*H*-イリデン)]-2-(2-メチルフェニル)アセトニトリルとなる。

毒物及び劇物指定令に規定されているマイクロカプセル製剤について

毒物及び劇物指定令				物質名	公布時期
No.	条	号	枝番		
1	2	10	—	2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6-ジェチルチオホスフェイト（別名ダイアジノン）を含有する製剤。ただし、2-イソプロピル-4-メチルピリミジル-6-ジェチルチオホスホフェイト3%（マイクロカプセル製剤にあつては、25%）以下を含有するものを除く。	平成8年3月
2	2	28	11	1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン（別名イミダクロプリド）及びこれを含有する製剤。ただし、1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン-2-イリデンアミン2%以下を含有するものを除く。	平成20年6月
3	2	32	2	5-アミノ-1-(2,6-ジクロロ-4-トリフルオロメチルフェニル)-3-シアノ-4-トリフルオロメチルスルフィニルピラゾール（別名フィプロニル）1%（マイクロカプセル製剤にあつては、5%）以下を含有する製剤	平成13年6月
4	2	32	56	(S)- $\alpha$ -シアノ-3-フェノキシベンジル=(1R・3R)-2,2-ジメチル-3-(2-メチル-1-プロペニル)-1-シクロプロパンカルボキシラート(R)- $\alpha$ -シアノ-3-フェノキシベンジル=(1R・3R)-2,2-ジメチル-3-(2-メチル-1-プロペニル)-1-シクロプロパンカルボキシラートとの混合物((S)- $\alpha$ -シアノ-3-フェノキシベンジル=(R・3R)-2,2-ジメチル-3-(2-メチル-1-プロペニル)-1-シクロプロパンカルボキシラート91%以上99%以下を含有し、かつ、(R)- $\alpha$ -シアノ-3-フェノキシベンジル=(1R・3R)-2,2-ジメチル-3-(2-メチル-1-プロペニル)-1-シクロプロパンカルボキシラート1%以上9%以下を含有するものに限る。)10%以下を含有するマイクロカプセル製剤	平成14年3月
5	2	37の3	—	ジェチル-3,5,6-トリクロル-2-ピリジルチオホスフェイト及びこれを含有する製剤。ただし、ジェチル-3,5,6-トリクロル-2-ピリジルチオホスフェイト1%（マイクロカプセル製剤にあつては25%）以下を含有するものを除く。	平成8年3月
6	2	100の6	—	2-(1-メチルプロピル)-フェニル-N-メチルカルバメート及びこれを含有する製剤。ただし、2-(1-メチルプロピル)-フェニル-N-メチルカルバメート2%（マイクロカプセル製剤にあつては15%）以下を含有する製剤を除く。	平成5年9月



薬食化発第0723003号  
平成20年7月23日

各〔都道府県知事〕  
〔保健所設置市市長〕殿  
〔特別区区长〕

厚生労働省医薬食品局審査管理課  
化学物質安全対策室長

毒物及び劇物指定令の一部を改正する政令等に伴う劇物のマイクロカプセル製剤の  
取扱いについて（通知）

毒物及び劇物指定令の一部改正等については、平成20年6月20日付薬食発第0620001号医薬食品局長通知が発出されたところであるが、今回の改正の中で劇物から除外された「（六クロロ－三－ピリジルメチル）－N－ニトロイミダゾリジン－ニ－イリデンアミン（別名イミダクロプリド）」2%以下を含有するマイクロカプセル製剤について、現在、我が国で流通しているものは下記のとおりであるので、業務の参考とされたい。

なお、同旨の通知を社団法人日本化学工業協会会長、全国化学工業薬品団体連合会会長、日本製薬団体連合会会長、社団法人日本薬剤師会会長及び社団法人日本化学工業品輸入協会会長あてに発出することとしていることを申し添える。

## 記

### 1. マイクロカプセル製剤の形状等

「（六クロロ－三－ピリジルメチル）－N－ニトロイミダゾリジン－ニ－イリデンアミン（別名イミダクロプリド）」を含む組成物を、多価イソシアナートと多価アミンを原料として界面重合法により形成するポリウレアにより被覆した、粒子径が数 $\mu\text{m}$ から数百 $\mu\text{m}$ のマイクロカプセルを含有する製剤であり、顕微鏡観察によりカプセルの形成を確認でき、かつ、急性経口毒性のLD<sub>50</sub>が2,000mg/kg以上のもの。

### 2. 販売名

ハチクサンMC

### 3. 販売元

バイエルクロップサイエンス株式会社

研究開発本部 登録センター部 エンバイロサイエンスグループ

東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル

TEL：03-6266-7377



## 議題 17 2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオンの毒性試験の取扱いについて

### 【経緯】

1. 2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオンは、  
毒物として、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン及びこれを含有する製剤。ただし、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン0.005%以下を含有するものを除く。  
…毒物及び劇物指定令第1条13の2号  
劇物として、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン0.005%以下を含有する製剤  
…毒物及び劇物指定令第2条47の2号  
で既に指定されている。
2. 企業から、配合濃度下限値設定の変更による指定除外の申請が、試験データをもってなされ、劇物の2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン0.005%以下を含有する殺そ剤は、普通物としたい意向である。(参考資料)
3. 平成18年度第1回毒物劇物調査会(開催日:平成18年8月1日)にて審議され、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオンが、0.1%より多く配合されている物質は毒物、0.005%より多く0.1%以下の物質は劇物、0.005%以下の殺そ剤は劇物から除外することが適当と判断された。
4. また、平成18年度第1回毒物劇物部会(開催日:平成19年3月19日)にて審議され、当該毒物は、殺そ剤において、血液抗凝固作用による致死的な作用がある。0.005%製剤を3日間から、5日間連続して投与するとネズミは必ず死にますという効能を謳っている。しかし、急性経口毒性試験では1回5000 mg/kg 投与すなわち、体重200 gのラットにすると1 g相当を食べても全く毒性徴候も死亡例も見られないという結果を得ている。  
他の試験データとしては、血液抗凝固作用に関するものが必要ではないのかとの意見があった。

#### 当該殺そ剤の作用機序

- ① クマリン誘導体の抗凝固性殺そ剤であり、ワルファリンと同じく血液凝固カスケードにおけるビタミンK依存性凝固因子の減少により、血液凝固能力の低下が殺そ効果となっている。
- ② 血液凝固能が低下する量の毒餌を継続的に摂取させることにより、毛細血管抵抗力の減少が生じ、血管障害による内出血で中毒死するとされている。
- ③ このため、1回の大量投与で血液凝固能が一時的に低下したとしても、その後、凝固能が回復してしまえば、内出血効果が生じなくなるものである。

当該部会の結論は、調査会の結論を踏襲することとし、事務局の最終的な判断を情報提供することとなった。

5. 当該部会終了後、部会長、調査会長他事務局を含め、今後の対応を検討したところ、以下の判定基準で評価することし、申請のあった企業に当該内容を提示し、追加の試験データを要求した（平成19年9月26日）。

2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオンの毒性（血液抗凝固作用）に対する安全性は、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン0.005%製剤にて、5日間の反復投与（殺そ効果試験の結果から影響が現れる日数）における無毒性量（NOAEL）を求め。

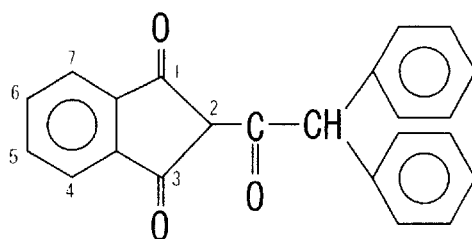
NOAELが3000 mg/kg（単回投与急性経口毒性試験における劇物からの製剤除外の値（LD50）と一致）／日であること。）

6. 申請のあった企業は、当該試験データの提示の指示を受け、試験の実施を検討したところ、平成19年9月30日に当該試験を実施するには至らず、試験データの提出が毒物劇物の判定基準に基づいた従来の方法により実施しない限りは困難であり、試験データの提示はない。

#### 【結論】

- ・ 2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオンの配合濃度下限値設定の変更による指定除外の件においては、本来は、従来どおりの毒物劇物の判定基準に基づいて、判断するところであるが、当該毒物劇物の判定を特例としたが、当該試験を実施するには至らなかった。

2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオンを含有する製剤の  
毒物及び劇物取締法に基づく毒物及び劇物の指定見直について



#### 名称

(英語名) 2-diphenylacetyl-1,3-indandione

(日本語名) 2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン

#### 経緯

現在、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオンは毒物及び劇物指定令  
第一条の13の2号に毒物に、0.005%以下の製剤は第二条の47の2号で劇物にそ  
れぞれ指定されている。

今般、新たに製剤の毒性試験が実施され、試験結果が提出されたものである。

#### 用途

殺そ

#### 物理化学的性状

別紙1を参照

#### 毒性

別紙2を参照

#### 事務局案

2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン及びこれを含有する製剤(ただし、  
2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン0.1%以下を含有するものを除  
く。)は、「毒物」に指定し、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン0.1%以  
下含有する製剤(ただし、2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン0.005%  
以下を含有する殺そ剤は除く。)は、「劇物」に指定することが適当と思われる。

## 物理的・化学的性質

項目		
名称	(英語名) 2-diphenylacetyl-1,3-indandione (日本名) 2-ジフェニルアセチル-1,3-インダンジオン	
分子式	C <sub>23</sub> H <sub>16</sub> O <sub>3</sub>	
CAS No.	82-66-6	
化審法番号		
分子量	340.37	
物理的・化学的性状		
性状	淡黄色、結晶性粉末	
沸点		
融点	145～147℃	
密度 (g/cm <sup>3</sup> )	1.281	
蒸気圧	2.1 × 10 <sup>-4</sup> Pa (20℃)	
溶解度 (g / 100g)	ヘプタン	0.18
	アセトン	2.9
	エタノール	0.21
	クロロホルム	20.4
水溶解度 (g/100g)	1.18 × 10 <sup>-4</sup>	
反応性		
安定性	融点以下では安定	
引火性及び発火性		
HS コード	3808.90	

## 毒性

## 原体

試験の種類	供試動物	試験結果	備考
急性経口毒性	ラット	♂LD <sub>50</sub> : 1.93mg /kg ♀LD <sub>50</sub> : 2.70mg /kg	北海道立衛生研究所(1971)
	ラット	♂LD <sub>50</sub> :43.3 mg /kg ♀LD <sub>50</sub> :22.7 mg /kg	鳥取大学農学部(1972)
	マウス	♂LD <sub>50</sub> :30.0 mg /kg ♀LD <sub>50</sub> :28.3 mg /kg	鳥取大学農学部(1972)

## 製剤(0.5%)

試験の種類	供試動物	試験結果	備考
急性経口毒性	ラット	♂♀LD <sub>50</sub> :500mg /kg	(財) 化学物質評価研究機構 (GLP 2006)

## 製剤(0.1%)

試験の種類	供試動物	試験結果	備考
急性経皮毒性	マウス	死亡率 : 6700mg/kg のみ10%	日本環境衛生センター (1972)
眼刺激性	ウサギ	刺激性あり(72時間後には 解消)	日本環境衛生センター (1972)

## 製剤(0.005%)

試験の種類	供試動物	試験結果	備考
急性経口毒性	ラット	♂♀LD50: 5000 mg / kg 以上	(株) 臨床医科学研究所 (GLP 1987)
急性経口毒性	マウス	♂♀LD50: 5000 mg / kg 以上	(株) 臨床医科学研究所 (GLP 1987)
急性経皮毒性	マウス	♂♀LD50: 2000 mg / kg 以上	(株) 臨床医科学研究所 (GLP 1991)
皮膚一次刺激性	ウサギ	陰性	(株) 化学品検査協会 (GLP 1987)
皮膚感作性	モルモット	陰性	(株) 臨床医科学研究所 (GLP 1991)